

緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン
 端末利用者が施す措置の一覧表

事業者名 株式会社センチュリー

機種名 地震の見張り番@home

型番 JMB-AH

表内には主たる利用方法A,B,Cについて、ガイドラインで端末利用者に推奨されている事項を左の欄に、端末等の適合状況を右の欄に記載しています。
 ※(op)は、条件によっては、影響等を十分考慮したうえで取り得る措置の一つを記述。

No		A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御			C 端末の報知による人の危険回避		適合状況
		機械等の制御	館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	
			不特定多数向けの警報に整合した放送	その他			
1	気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内となります。
2	気象庁から端末まで、配信をとぎれさせないような対策	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	配信サーバと端末はTCP/IPで常時接続し保全。サーバは冗長化での運用を実現しており、配信をとぎれしないような対策を施しております。
3	時刻合わせ	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内となります。
4	配信・許可事業者によるサポート	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	緊急地震速報管理センターを設け、サポートを充実させております。
5	耐震固定等地震の揺れへの対策	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	設置面にすべり止め有り。
6	無停電化	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	UPSにて対応可能。L3SW、ルータ及びハブ等のネットワーク関連機器も同時に無停電対策を施すことを推奨しております。
7	端末の冗長化	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	対応可能。
8	常時接続できる回線	必須	必須	必須	必須	必須	TCP/IP常時接続。
	専用線などの信頼性の高い回線	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	推奨しております。
9	サーバ-端末間の物理回線の冗長化	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	サーバを冗長化しております。お客様がご利用される回線も冗長化を推奨しております。
10	予想した猶予時間	猶予時間がない場合でも利用	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも注意喚起のアナウンスを流せませす。
11	予想した震度	制御先の強度等に応じた閾値を設定	警報に整合	施設の安全性による閾値を設定	警報に整合	端末利用者の必要性に応じた閾値を設定	利用者による任意設定が可能。
12	精度情報(凡例) 100ガル:100ガル超え緊急地震速報 1点:1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業) 複数点:複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)	複数点を利用 (op)100ガル、1点等は制御の準備に利用 (op)迅速な制御を行う際には、100ガル、1点も利用	警報に整合 100ガル、1点等は放送の準備に利用	複数点を利用 100ガル、1点等は放送の準備に利用	警報に整合	複数点を利用	複数点を利用。
13	深発地震についての緊急地震速報(業)	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	利用することが可能です。(平成26年6月19日にガイドライン一部追記事項が発生したことを考慮しております)

No		A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御		C 端末の報知による人の危険回避		適合状況	
		機械等の制御	館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知		その他の緊急地震速報(業)の報知
			不特定多数向けの警報に整合した放送	その他			
14	放送・報知内容	<p>【平成25年8月2日改正】 緊急地震速報(業)の館内放送を行う場合は、短い猶予時間の中で適切な行動を促す必要があるため、不特定多数向けの報知音としてNHKチャイム音(最大予測震度5弱以上の場合のみ)を使用して、緊急地震速報(業)が提供されたことと、揺れに対してとるべき行動を端的に伝えることを推奨する。NHKチャイム音を推奨するのは、他の電子音に似ていない、多くの人に聞き取りやすい、ある程度危険を知らせるイメージがある一方で慌てて混乱させることがない、既にテレビやラジオで聞き慣れている人も多く緊急地震速報(業)の報知音として認識されやすいという理由からである。 (NHKチャイム音の放送例) 最初にNHKチャイム音を2回鳴らした後、「地震です。落ち着いて身を守ってください。」の文言を2回繰り返す。 緊急地震速報(業)の報知音としては、端末利用者が施す借道で端末利用者に推奨しているNHKチャイム音(最大予測震度5弱以上の場合のみ)の他に、REIC「特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用者協議会」のサイン音、一般的なアラーム音等がある</p>				NHKチャイム音の著作権者である日本放送協会と「NHKチャイム音利用許諾契約書」を締結しており、契約を遵守し、ガイドラインに適合したシステムです。	
15	緊急地震速報(業)で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)	予想した震度によって異なる制御内容があり、制御開始後であっても制御内容の変更が許される制御対象の場合で、かつ、予想した震度が大きくなる場合には制御内容を変更。予想した震度が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要。震度の違いによって制御の内容を変えていない場合や制御開始後は制御内容の変更が許されない制御対象の場合では用いない	放送内容は変更しない	予想した震度によって放送を変えており、放送対象者が放送の変更に対応が可能な場合で、かつ、放送後の予想した震度が大きくなる場合には震度に応じた内容を放送。予想した震度が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要。震度の違いによって放送の内容を変えていない場合や放送対象者が放送の変更に対応できない場合では用いない	放送内容は変更しない	予想した震度または猶予時間を報知している場合は、予想した震度が大きくなる場合または猶予時間が短くなる場合に報知内容を変更	予測震度が1段階以上上がった場合、もしくは、猶予秒数が20以上あり猶予秒数が10秒以上短くなる演算結果はアナウンス内容を更新する。別の地震を受けた場合も同様。
16	キャンセル報	制御やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	対応可能です。
17	試験	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や制御をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や放送をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や放送をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	サーバからテスト電文を配信して試験を行えます。普段はサーバ側の制御でテスト報による動作をしないような設定が可能です。
18	訓練	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること(B)に限る	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や報知をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や報知をしない設定とすること	対応可能です。 誤動作防止のため、端末側のボタンを押してからタッチパネル操作で所定の動作を行わないと訓練が実施されないようにしています。
19	配信・許可事業者への連絡	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	端末本体にサポート先の連絡先をシール等で貼り、利用者が連絡を取りやすい環境を販売店にも推奨しております。